The Yamaguchi Prefectural Museum of Art

山口県立美術館ニュース「天花」

100

天花

TENGE

contents

常設展
ウィーン美術アカデミー名品展
年間スケジュール

香月泰男「太陽と自転車」1955年頃　山口県農業協同組合中央会蔵

Exhibition

常設展

小林和作記念室・資料展示室

「JAコレクションの軌跡」

4/1sat～6/11sun

表紙作品解説

香月泰男(1911-1974)「太陽と自転車」1955年頃
墨、クレヨン・紙　51.8×31.5㎝　山口県農業協同組合中央会蔵

香月泰男は1947年にシベリアから生還しますが、翌48年には復職先の下関高等女学校から深川高女に転勤がきまり、これを機に郷里三隅町の生家からの通勤が可能となります。以後、60年に退職するまで毎日30分をかけて学校とのあいだを自転車で通勤したといいます。日本海に沈む夕日を背景にしたこの自転車は、その通勤に使った愛用の自転車だった可能性があります。

ところでこのスケッチ。どんな画材と技法からできていると思いますか。画材は習字に使う硯と棒墨とクレヨン。技法は、といえば、制作現場をみていた香月美術館長の坂倉秀典氏によれば、一まず硯で墨をすります。つぎに墨汁を刷毛にふくませ、水を一杯にはったバケツに浸し、薄墨を作ります。それを紙の上にはいていき、紙が薄墨で水分をたっぷりとふくんだところで、棒墨の再登場です。棒墨は「変身」して、こんどは線描の画材です。スケッチをみてください。海の水平線あたりの掠れたような帯状の線。これは棒墨の平たい面を横に引いたもの。手前の細い線は、棒墨のかどをシャープな線、均質な線、掠れた線など使いわけながら引いています。太陽は、あらかじめ黄色のクレヨンで塗っておき、その上に薄墨をはいて、水をはじかせ、大気の透明感を出しています。一幅の「水墨」スケッチの完成です。

どこにでも見られるモチーフ、どこにでもある画材、誰でもできそうな技法。なのに香月泰男以前にはこんな「素描」はありませんでした。発明した作者は、それに「着色素描」と命名しました。この「着色素描」に限らず、香月泰男は、描きたいモチーフが従来の絵具や画材で表現できないとなると、画材そのものをモチーフに合わせて発明しようとしました。代表作とされる「シベリア・シリーズ」の絵具も然り。すべてがオリジナルです。

このスケッチをみていると、自転車で通勤する間も絵のことばかり考えていたにちがいない作者の姿が想像されてきます。

ところで、この素描は、このたび寄託をうけたＪＡグループ山口の絵画コレクション中の１点です。このコレクションは、山口県農協中央会長などを歴任した故瀧口純氏のもとで昭和30～40年代に蒐集されたもので、山口県出身画家の重要な作品がふくまれる貴重なコレクションです。本展はそのお披露目展。寄託された中から香月泰男、松田正平の作品などを紹介します。

（副館長　安井雄一郎）

香月泰男室

「中本達也の世界」4/1～6/11

旧大島郡東和町出身の中本達也（1922～73）は、帝国美術学校（現武蔵野美術大学）を卒業後、自由美術協会で活躍しました。40歳すぎて渡欧、その後、堅く厚い絵肌のなかに閉じこめられたような人間の姿を表現するようになります。「人間とは何か」と絵画のなかで問い続けた中本の画業を紹介します。

中本達也「人間の扉」1967年
山口県立美術館蔵

山本晃　銀四分一赤銅接合せ箱「青響」2000年
山口県立美術館蔵

郷土工芸室

「山口の工芸（金工と赤間硯）」4/1～6/11

山口県の工芸といえば、萩焼が余りにも有名ですが、近年、県の無形文化財の指定を受けた工芸として、金工と赤間硯があります。山口県指定無形文化財保持者の山本晃・堀尾信夫らの作品を中心に、山口の二つの工芸分野の魅力に迫ります。

第二常設展示室

「戦後日本画の変革」5/30～6/25

戦後、学徒動員から戻った下村良之介（1923～98）は、三上誠、星野真吾ら若き友人たちとパンリアル美術協会を結成し、さまざまな素材を合わせた（ミクストメディア）日本画の制作に挑戦しました。既成の枠組みに疑問を感じ、日本画の新しい表現を追求した若者たちの軌跡などをご紹介します。

下村良之介「七つの軌跡」1965年
山口県立美術館蔵

リニューアルオープンのお知らせ

2005年5月から空調工事のため長期間お休みしていましたが、ついに4月1日から常設展が、7日からは特別展「ウィーン美術アカデミー名品展」がオープンすることになりました。今回は目に見えないところのリニューアルが中心でしたが、それでも前とはちがうところをみつけられたあなた、相当の県美通かも！？ 今年も県美から目が離せませんよ！

ウィーン美術アカデミー名品展 ヨーロッパ絵画の400年

音楽の都ウィーン。かつてのハプスブルク王朝の首都であり、ヨーロッパの中央に位置するこの地はまた一方で、さまざまな国から美術家や作品を惹き寄せてきた芸術の都としても知られています。このたびの展覧会は、この中欧の都ウィーンが誇るウィーン美術アカデミー絵画館のコレクションをご紹介するものです。

ウィーン美術アカデミー絵画館の基礎を作ったのは、外交官としてハプスブルク家の女帝マリア・テレジア（1717～1780）に仕えたランベルク伯爵（1740～1822）でした。有名な美術コレクターでもあった彼は、自らの死に際し、740点もの絵画を美術アカデミーに遺贈したのです。

このたび展示されるのは、ランベルク伯爵ゆかりの作品を含む、16世紀から19世紀までのヨーロッパ絵画の精華84点です。ルーベンスやレンブラントなどの巨匠から、精緻をきわめた静物画、自然の劇的な瞬間をとらえた風景画など、見ているだけで心楽しくなる作品が揃いました。マリア・テレジアの時代から、変わることなくウィーンで守り愛されてきた作品の数々を、どうぞ存分にお楽しみください。

■マリア・テレジアって誰？

マリア・テレジア（1717-1780）

オーストリア大公にして神聖ローマ帝国皇帝カール６世（1685-1740）の長女。カール６世に男子がいなかったため、女性ながらハプスブルク家の広大な領土を受け継ぎました。男性顔負けの政治手腕を発揮します。一方、夫のフランツ・シュテファンとは恋愛結婚、16人の子供をもうけるなど、愛情たっぷりの人間的な一面も。ギロチン台の露と消えた悲劇のフランス王妃、マリー・アントワネットの母親としても有名です。

《女帝マリア・テレジアの肖像》1759
マルティン・ファン・マイテンス

この、幾重にもなった華やかで繊細なレースをご覧下さい。ドレスの刺繍に使われているのは、髪や耳元を飾るのと同じ宝石でしょうか。豪華な衣装からは、ハプスブルク帝国君主としての威厳が十分伝わってきます。作者のマイテンスは、ウィーン美術アカデミーの校長も務めました。

他のウィーン関連の展覧会情報
『ウィーン展－華麗なる美術と音楽のしらべ』
島根県立石見美術館[開催中：～6/5(月)]
お問い合わせ先　tel.0856-31-1860
（島根県立石見美術館）

主な出品作品

《三美神》1620-24
ペーテル・パウル・ルーベンス

『フランダースの犬』でネロ少年が憧れた、フランドルの巨匠ルーベンスの作品。花かごを運ぶ三人の女神は、古代ギリシア神話に登場するゼウス神の娘たち。ルーベンスにしか描けないといわれる、真珠色に輝く女性の肌は必見です。

《若い女性の肖像》1632
レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン

光と闇を駆使して、ドラマチックな心理描写を得意としたレンブラント。この肖像画でも、瞳の光、手の置き方などの細部の表現が、モデルの心理をいきいきと語っています。

《トロンプ・ルイユの静物》1655
サミュエル・ファン・ホーホストラーテン

「ん、こんなところに扉が？」いやいや、これは描かれた扉です。コシの強そうな刷毛やごわごわした布も、すべて描かれたもの。17世紀のネーデルラント絵画は、このように、触感を思い起こさせるほどの真に迫った描写が魅力の一つです。

© Gemäldegalerie der Akademie der bildenden Künste Wien

展覧会イベント

KRY山口放送開局50周年記念

ウィーン美術アカデミー名品展
—ヨーロッパ絵画の400年

2006年4月7日(金)～5月21日(日)
休館日:月曜日(ただし5月1日は開館)
開館時間:9:00-17:00(入館は16:30まで)
観覧料:一般1200円(1000円)　学生1000円(800円)　(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金

18歳以下、70歳以上および高等学校、盲・ろう・養護学校に在籍の方は無料
前売り券はJTB各支店、JTBトラベランド各店、JTB総合提携店、ローソンチケット(Lコード:69650)および県内各プレイガイドでお求め下さい。プレイガイドの詳細は、展覧会HPにてご確認いただけます。

主催:山口県立美術館、読売新聞西部本社、KRY山口放送、美術館連絡協議会
後援:オーストリア大使館
協賛:花王株式会社、大日本印刷
協力:日本航空

講演会

「マリー・アントワネットとマリア・テレジア」(要整理券)
不朽の名作『ベルサイユのばら』の作者、池田理代子氏をお迎えして、マリー・アントワネットやその母マリア・テレジアへの想いを語っていただきます。
講師:池田理代子
日時:4月16日(日)14:00～(13:30開場)
会場:山口県立図書館レクチャールーム
定員:290名(当日午前9時より美術館にて整理券を先着順に配布。ただし、観覧券をお持ちの方に限ります。)

「音楽と美術の都ウィーン—その歴史と文化」
歴史研究者の山之内克子氏をお迎えして、18世紀ウィーンの華麗な都市文化についてお話いただきます。
講師:山之内克子(神戸市外国語大学助教授)
日時:4月30日(日)14:00～
会場:美術館講座室　定員:80名(先着順)

キッズイベント

●「親子で楽しむウィーン展」(要申込)
日時:4月9日(日)、23日(日)　各日10:00～
対象:小学生以下
定員:各回子ども10名+保護者(先着順)
参加費:保護者の方のみ観覧券が必要です。
申し込み方法:官製の往復ハガキかE-mailに①参加希望日②住所③氏名④年齢⑤職業⑥電話番号を記入の上、下記までお申し込みください。

●ヨーロッパのおはなし(童話や昔話を聞くおはなし会)
協力:こどもと本ジョイントネット21・山口
日時:4月8日・15日・22日・29日　各土曜日10:00～
会場:美術館ロビー

●子どものためのギャラリー・トーク「みんなでみよう」(美術館ボランティア企画)
日時:会期中の毎週土曜日　11:00～

■託児サービス
ちびっこルーム(定員制・要予約)
会期中毎週木曜日(10:00～13:00)に無料の臨時託児所を用意します。利用する週の月曜日までに電話、またはE-mailで下記までお申し込みください。

■学芸員によるギャラリー・トーク
日時:4月9日・16日・23日・30日・5月14日　各日曜日11:00～

■ゴールデンウィーク夜間特別開館
5月1日(月)～7日(日)は20:00まで開館いたします。(入館は19:30まで)
特別鑑賞会「ウィーン夜話」18:00～(夜間特別開館期間中)
夜の美術館を学芸員とともにお楽しみください。

各種お申し込み・お問い合わせ先
〒753-0089　山口市亀山町3-1　山口県立美術館普及課
tel.083-925-7788　E-mail:a50702@pref.yamaguchi.lg.jp　http://www.yma-p.jp

2006-2007 schedule

山口県立美術館　平成18年度年間スケジュール

	特別展	常設展			
4	4/7～5/21 ウィーン美術アカデミー名品展 ヨーロッパ絵画の400年	4/1 山口の工芸（金工と赤間硯）中本達也の世界	JAコレクションの軌跡		
5	5/26～6/4 伝統工芸新作展				
6		6/11 6/13		5/30 戦後日本画の変革 6/25	
7	6/27～7/23 雲谷派展 I	現代の陶芸 I 小林和作の世界	香月泰男の版画	細江英公の写真	
8	7/25～8/20 雲谷派展 II	8/20 8/22		8/13 8/15	
9	9/7～9/24 第9回やまぐち県民文化祭 第59回山口県美術展覧会	現代の陶芸 II 松田正平の世界 10/1	藤田隆治の世界	佐藤明の写真	
10	10/2～10/31 臨時休館				
11	11/1～11/30 没後500年記念特別展覧会 雪舟への旅展				
12	12/1～12/11 臨時休館				
	12/19～12/24 第58回学校美術展覧会	12/12			
1	1/11～1/14 山口県高等学校総合文化祭 展示部門展	植木茂の小品展 桂ゆきの世界	山口県ゆかりの洋画家	12/27 日本水彩画会の二人 ―河上左京と河上大二―	
2	1/31～2/4 山口県立大学卒業制作展 2/8～2/11 山口大学卒業制作展 2/15～2/18 山口芸術短期大学卒業制作展	2/25 2/27			
3		現代の陶芸 III 宮崎進の世界	永地秀太の世界	中村正也の写真	松林桂月の世界

Information

■休館日
月曜日（月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館）
年末年始（12月28日～1月3日）
10月2日～31日、12月1日～11日

■開館時間
9:00～17:00（入館は16:30まで）

■料金
常設展：一般190（160）円　学生120（100）円
（　）内は20名以上の団体料金
特別展：別途に定めた料金
常設展・特別展ともに18歳以上と70歳以上および高等学校、盲・聾・養護学校に在学する方等は無料。
教育文化週間11月1日～11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館
The Yamaguchi Prefectural Museum of Art
〒753-0089
山口市亀山町3-1
TEL:083-925-7788
FAX:083-925-7790
http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/kenbi

山口県立美術館ニュース「天花」第100号　平成18年3月31日発行
発行 山口県立美術館　印刷 森重印刷株式会社